

ヒヨコの埴輪作り

09. 6. 22



埴輪を取り上げました。埴輪は絵付けも釉薬もない素焼ですが、私たちの心に優しく触れてくるような、不思議な魅力があります。

ヒヨコを題材に、風船作りを練習します。風船作りは脹らんだ形を外から押さえて作るので、丸い形が出来やすく、ヒヨコのかわいらしさにぴったりです。焼成は藁を巻き素焼し、野焼き風の焦げ目を付けます。



野焼土200g。

風船作り。玉作りから口をつぼめ閉じ、空気を中に封じる。



タタキながら丸める。くちばし首を作り、だいたいの形に。柔らかめの半乾きに。



姿を決める。鋸歯でシワを取り、裏に穴を開ける。 シュッ！



くちばし作り。目の位置は草食なので頭の左右。目を指で押し歪め、形を作る。

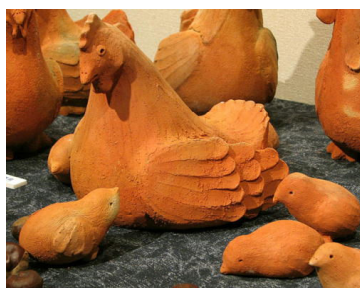


接着は水でOK。粘土の小さな玉をなすり付けて羽にする。足をひと固まりで付ける。



足をひねり出す、大きめにする。バランスを見て乾燥。

藁を巻き素焼。



以前チャボを放し飼いにしていた頃を思い出します。雌は7個ぐらい卵を産み巣ごもりに入ります。そうなりと、おどかしても叩いても絶対卵の上からどきません。一日一回大急ぎで餌を食べ水を飲み糞をし、走って巣に戻りまた一日座る。

やがて三週間すると、ピヨピヨと声がしてヒヨコが親の腹の下から出てきて、もう毛虫などをついばみ出す。まあそのコロコロと可愛いこと可愛いこと。やがて小さい羽なども生え、羽ばたきの練習、ピヨピヨから声変わりしてクェクェと鳴き出す。ここまで育つと猫よけの軒下の止まり木に、自分で行く訓練に入ります。

まだ竹藪があり、緑の色濃い頃のことでした。